

# 福岡県公報

平成27年9月29日  
第3731号  
増刊 ②

## 目次

### 公 告

○福岡県人事行政の運営等の状況 (人 事 課) …………… 1

## 公 告

### 公告

福岡県人事行政の運営等の状況の公表に関する条例（平成17年福岡県条例第8号）第6条の規定により、福岡県の人事行政の運営等の状況について、次のように公表する。

平成27年9月29日

福岡県知事 小 川 洋

## 一 人事行政の運営の状況

### 1 職員の任免に関する状況

#### (1) 職員の任免

ア 職員の採用

26年度に新たに採用された一般職の職員及び新たに再任用された職員の状況は、次のとおりです。

区分	合計	行政職	警察職	教育職	技能労務職	研究職
新規採用	(3) 1,581	(3) 242	487	823	0	29
新規再任用	(65) 315	(15) 99	(3) 12	(41) 148	(2) 39	(4) 17

(単位：人)

(注) 1 新規採用には国や他団体との人事交流に伴う採用を含みます。

2 政令市立学校の教職員は含みません。

3 「新規採用」欄の( )内は任期付採用職員で、内数です。

4 「新規再任用」欄の( )内は短時間勤務職員で、内数です。

#### イ 職員の離職

26年度に離職した一般職の職員及び再任用を満了した職員の状況は、次のとおりです。

区分	合計	行政職	警察職	教育職	技能労務職	研究職
定年退職	1,006	221	214	494	44	33
早期退職募集 による退職	319	38	24	248	7	2
その他	(24) 407	(24) 81	168	138	2	18
再任用の満了	(68) 237	(35) 80	(2) 13	(22) 91	(2) 36	(7) 17

(単位：人)

(注) 1 政令市立学校の教職員は含みません。

2 「その他」欄の( )内は任期付採用職員で、内数です。

3 「再任用の満了」欄の( )内は短時間勤務職員で、内数です。

## 2 職員の給与の状況

### (1) 人件費の状況 (普通会計決算)

区分	住民基本台帳人口 (27年1月1日)	歳出額		実質収支	人件費		人件費率 B/A	(参考) 25年度の人件費率 %
		A 千円	B 千円		B 千円	B/A %		
26年度	5,120,197	1,611,004,482	4,190,168	4,190,168	488,761,725	30.3	29.7	

### (2) 職員給与費の状況 (普通会計決算)

区分	職員数 A 人	給与費			一人当たり給与費 B/A 千円
		給料 千円	職員手当 千円	期末・勤勉手当 千円	
26年度	50,030	232,605,454	48,249,884	88,913,623	369,768,961

(注) 1 職員手当には退職手当を含みません。

2 職員数は26年4月1日現在の人数で、教育長及び電気事業・工業用水道事業・工業用地造成事業・病院事業・流域下水道事業・県営埠頭施設整備運営事業職員(計111人)を除きます。

3 給与費については、再任用職員(短時間勤務)の給与費が含まれており、職員数には当該職員数を含んでいません。

### (3) ラスパイレス指数の状況

区分	H23.4.1	H24.4.1	F25.4.1	H26.4.1
福岡県	101.8	101.9	101.9	101.8
都道府県平均	99.3	99.3	99.3	99.9

(注) 1 ラスパイレス指数とは、全地方公共団体の一般行政職の給料月額を同一の基準で比較するため国の職員数(構成)を用いて、学歴や経年数による影響を補正し、国の行政職俸給表(一)適用職員の俸給月額を100として計算した指数です。

2 平成24年及び平成25年は、国家公務員の時間的な(2年間)給与改定・臨時特例法による給与減額措置がないとした場合の値です。

## (4) 給与改定の状況

## ①月例給

区分	人事委員会の勧告				給与改定率 %
	民間給与 A	公務員給与 B	較差 A-B	勧告 (改定率)	
26年度	円 379,984	円 379,041	943 円 (0.25%)	0.25	0.25

(注) 「民間給与」、「公務員給与」は、人事委員会勧告において公民の4月分の給与額をラスパインレス比較した平均給与月額です。

## ②特別給 (期末・勤労手当)

区分	人事委員会の勧告				年の年間 支給月数
	民間の支給割合 A	公務員の支給月数 B	較差 A-B	勧告 (改定月数)	
26年度	月 4.11	月 3.95	0.16	0.15	4.10

(注) 「民間の支給割合」は民間事業所で支払われた賞与等の特別給の年間支給割合、「公務員の支給月数」は期末手当及び勤労手当の年間支給月数です。

## (5) 給与制度の総合的見直しの実施状況について

【概要】国の給与制度の総合的見直しにおいては、俸給表の水準の平均2%の引下げ及び地域手当の支給割合の見直し等に取り組むとされている。

## ①給料表の見直し

実施内容

(給料表の改定実施時期)

平成 2 7 年 4 月 1 日

(内容)

行政職の給料表について、国の見直し等を踏まえ、高齢層を中心に平均2%引下げ。激変緩和のため、5年間(平成32年3月31日まで)の経過措置(現給保障)を実施。他の給料表については、行政職給料表との均衡を踏まえて見直しを実施。

## ②地域手当の見直し

実施内容

(支給割合)

国基準による支給割合	平成26年度		見直し後 (H27.4.1)	平成27年度
	福岡市	10	10	10
春日市、福津市	3	10	10	5
大野城市、大宰府市、糸島市、那珂川町、志免町、新宮町、粕屋町	3	6	6	4
北九州市、筑紫野市、古賀市、宇美町、篠栗町、須恵町、久山町	3	3	3	3
上記以外	0	0	0	0
福岡県の支給割合				
福岡市	4.75	6	6	5
福岡市以外	3.5	5	5	3.75

(実施時期)

平成 2 7 年 4 月 1 日より実施。制度完成時まで段階的に引上げ。

## ③その他の見直し内容

管理職員特別勤務手当及び単身赴任手当について、国と同様に見直しを実施(平成27年4月1日実施)

### 3 職員の平均給与月額、初任給等の状況

#### (1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額等の状況（26年4月1日現在）

##### ①一般行政職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国比較ベース)
福岡県	43.2 歳	337,166 円	424,788 円	373,665 円
国	43.5 歳	335,000 円	—	408,472 円
都道府県平均	43.4 歳	335,401 円	421,368 円	375,393 円

(注) 1 「平均給料月額」とは、26年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均です。

2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものです。

また、「平均給与月額(国比較ベース)」は、比較のため、国家公務員と同じベース(=時間外勤務手当等を除いたもの)で算出しています。

(以下同じ)

##### ②技能労務職

区分	平均年齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額 (A)	平均給与月額 (国比較ベース)
福岡県	54.2 歳	746 人	334,701 円	382,000 円	361,249 円
うち用務員	54.5 歳	246 人	334,133 円	372,855 円	358,705 円
うち自動車運転士	56.3 歳	143 人	323,857 円	380,743 円	348,702 円
うち守衛	55.3 歳	22 人	357,934 円	457,610 円	395,369 円
うち電話交換手	57.4 歳	5 人	339,357 円	402,866 円	371,131 円
うちその他技能労務職	52.9 歳	330 人	338,204 円	384,005 円	366,159 円
国	50.1 歳	3,119 人	287,992 円	—	326,611 円
都道府県平均	51.2 歳	282 人	331,881 円	387,064 円	364,062 円

##### ③高等(特別支援)学校教育職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
福岡県	47.3 歳	404,856 円	463,436 円
都道府県平均	44.8 歳	383,450 円	443,343 円

##### ④小・中学校教育職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
福岡県	45.2 歳	380,286 円	429,697 円
都道府県平均	43.5 歳	368,928 円	422,542 円

##### ⑤警察職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国比較ベース)
福岡県	38.3 歳	317,877 円	440,942 円	353,636 円
国	41.3 歳	316,666 円	—	367,707 円
都道府県平均	38.8 歳	321,974 円	463,360 円	366,254 円

## (2) 職員の初任給の状況（26年4月1日現在）

区分	福岡県	国	
一般行政職	大学卒	178,800 円	172,200 円
	高校卒	144,500 円	140,100 円
技能労務職	自動車運転士等	137,500 円	- 円
	用務員等	125,400 円	- 円
高等学校教育職	大学卒	199,700 円	- 円
	高校卒	154,900 円	- 円
小・中学校教育職	大学卒	199,700 円	- 円
	高校卒	- 円	- 円
警察職	大学卒	197,200 円	200,000 円
	高校卒	164,700 円	161,500 円

## (3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額の状態（26年4月1日現在）

区分	経験年数10年	経験年数20年	経験年数25年	経験年数30年	
一般行政職	大学卒	268,297 円	366,553 円	393,298 円	421,551 円
	高校卒	218,563 円	317,673 円	366,175 円	392,161 円
技能労務職	高校卒	- 円	294,625 円	332,847 円	354,910 円
	中学卒	- 円	- 円	335,460 円	350,200 円
高等学校教育職	大学卒	310,483 円	401,023 円	428,005 円	442,906 円
	高校卒	- 円	329,277 円	- 円	409,188 円
小・中学校教育職	大学卒	310,436 円	395,474 円	416,394 円	430,729 円
	高校卒	- 円	- 円	- 円	- 円
警察職	大学卒	278,373 円	386,120 円	405,897 円	422,018 円
	高校卒	249,676 円	346,100 円	388,148 円	410,179 円

- : 該当職員なし

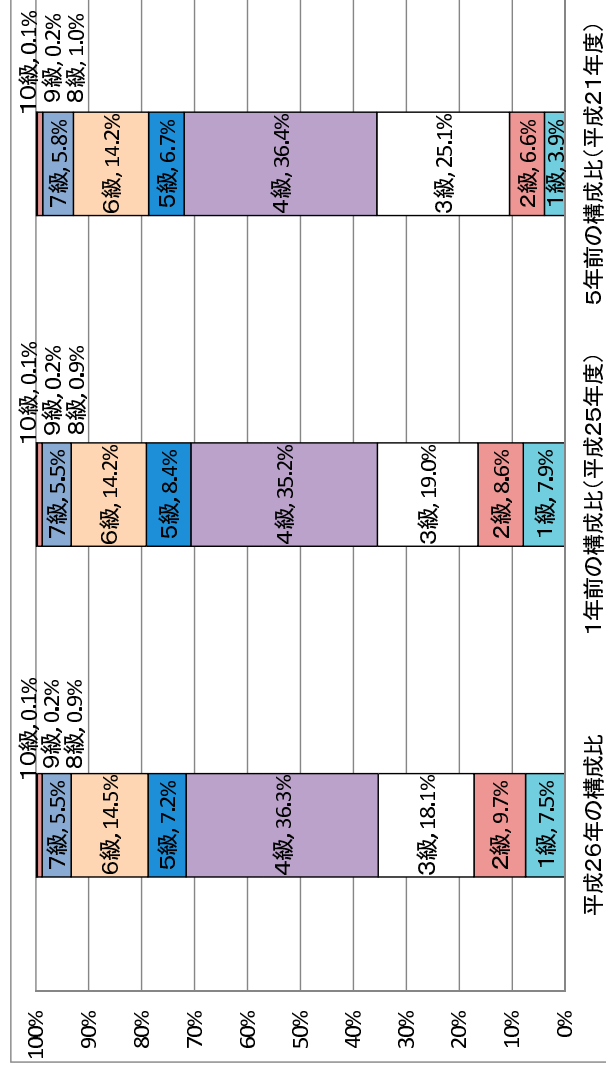
4 一般行政職の級別職員数等の状況

(1) 一般行政職の級別職員数の状況（26年4月1日現在）

区分	標準的な職務内容	職員数	構成比	給料月額
1 級	主事 技師	640 人	7.5 %	135,600 円 ~ 243,700 円
2 級	主任	823 人	9.7 %	185,800 円 ~ 307,800 円
3 級	主査 困難な業務を処理する主任	1,537 人	18.1 %	222,900 円 ~ 354,700 円
4 級	本庁の係長 困難な業務を処理する主査	3,074 人	36.3 %	261,900 円 ~ 395,800 円
5 級	本庁の課長補佐 本庁の困難な業務を処理する係長	612 人	7.2 %	289,200 円 ~ 405,800 円
6 級	本庁の課長 本庁の困難な業務を処理する課長補佐	1,225 人	14.5 %	320,600 円 ~ 422,600 円
7 級	本庁の困難な業務を処理する課長	462 人	5.5 %	366,200 円 ~ 456,200 円
8 級	本庁の次長	75 人	0.9 %	413,000 円 ~ 478,200 円
9 級	本庁の事務局長	13 人	0.2 %	464,600 円 ~ 537,700 円
10 級	本庁の部長	12 人	0.1 %	529,500 円 ~ 570,100 円

(注) 1 福岡県職員の給与に関する条例に基づく給料表の級区分による職員数です。

2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務です。



(2) 昇給への勤務成績の反映状況（知事部局の行政職給料表適用者）

26年度	勤務成績が特に良好 5号給以上(55歳超の職員は3号給以上)	403	人
	勤務成績が良好(標準) 4号給( " 2号給)	5,363	人
	勤務成績が良好と認められないもの 3号給以下( " 1号給以下)	228	人
	(計)	5,994	人

## 5 職員の手当の状況

## (1) 期末手当・勤勉手当

福岡県	国
1人当たり平均支給額(26年度決算見込)	(非公表)
期末・勤勉手当 1,568 千円	
(26年度支給割合)	(26年度支給割合)
期末手当 勤勉手当	期末手当 勤勉手当
2.60 月分 1.50 月分	2.60 月分 1.50 月分
(1.45) 月分 (0.70) 月分	(1.45) 月分 (0.70) 月分
(加算措置の状況)	(加算措置の状況)
職制上の段階、職務の級等による加算措置	職制上の段階、職務の級等による加算措置
・役職加算 5～20%	・役職加算 5～20%
・管理職加算 10～25%	・管理職加算 10～25%

(注) ( )内は、再任用職員に係る支給割合です。

## (2) 退職手当 (26年4月1日現在)

福岡県	国
(支給率)	(支給率)
自己都合 定年・早期退職募集による退職	自己都合 定年・応募認定
勤続20年 21.62 月分 27.025 月分	勤続20年 21.62 月分 27.025 月分
勤続25年 30.82 月分 36.57 月分	勤続25年 30.82 月分 36.57 月分
勤続35年 43.70 月分 52.44 月分	勤続35年 43.70 月分 52.44 月分
最高限度額 52.44 月分 52.44 月分	最高限度額 52.44 月分 52.44 月分
その他の加算措置	その他の加算措置
— 定年前早期退職特例措置 (割増率2%～45%)	定年前早期退職特例措置 (割増率2%～45%)
1人当たりの平均支給額 3,917 千円 23,164 千円	

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、26年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額です。

## (3) 地域手当 (26年4月1日現在)

支給実績(26年度決算見込)		9,394,896 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(26年度決算見込)		165,098 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	国の制度(支給率)
東京都特別区	18 %	40 人	18 %
大阪市	15 %	5 人	15 %
府中市、名古屋市	12 %	3 人	12 %
福岡市	4.75 %	16,187 人	10 %
北九州市、筑紫野市、春日市、大野城市、大宰府市、古賀市、福津市、糸島市、那珂川町、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町、粕屋町	3.50 %	16,274 人	3 %
その他の県内市町村	3.50 %	17,808 人	0 %
医師・歯科医師	15 %	44 人	15 %
平均支給率	3.92 %	—	4.21 %
地域手当補正後ラスパイレース指数(ラスパイレース指数)		100.7 (101.8)	

(注) 1 「国の制度(支給率)」の欄の平均支給率は、支給対象職員に対し国の率で支給した場合の加重平均の支給率です。

2 医師及び歯科医師の支給率は、東京都特別区の場合を除き支給対象地域にかかわらず15%です。

3 地域手当補正後ラスパイレース指数とは、地域手当を加味した地域における国家公務員と地方公務員の給与水準を比較するため、地域手当の支給率を用いて補正したラスパイレース指数です。(補正前のラスパイレース指数×(1+当該団体の地域手当支給率) / (1+国の指定基準に基づく地域手当支給率)により算出されます。)

(4) 特殊勤務手当 (26年4月1日現在)

支給実績(26年度決算見込)		3,030,500 千円			
支給職員1人当たり平均支給年額(26年度決算見込)		91,758 円			
職員全体に占める手当支給職員の割合(26年度)		58.0 %			
手当の種類(手当数)		45			
区分	手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (26年度決算見込)	左記職員に対する支給単価
一 般 職 員	防疫等作業手当	保健福祉環境事務所等職員	①狂犬病予防注射・犬の捕獲 ②感染症患者の救護・病原体付着物件の処理、検疫作業、細菌検査 ③口蹄疫、鳥インフルエンザの主犯防止のために行う家畜の殺、家畜の死体の焼却・埋却、畜舎の消毒の作業	93 千円	①日額300円 ②日額290円 ③日額380円 (作業が著しく危険な場合は760円)
	放射線取扱手当	放射線技術職員	有害放射線の影響を受ける作業	415 千円	日額300円
	危険業務手当	県土整備事務所、ダム建設事務所、水産海産技術センター、農林業総合試験場、計画検定所職員	①坑内のトンネル掘り作業、水面下4m以上の深所作業、高所作業、大型農業機械作業、爆発物立入検査 ②圧搾空気内作業、潜水作業	1,281 千円	①日額140円～560円 ②1時間210円～1,500円
	社会福祉業務手当	保健福祉環境事務所等、障害者更生相談所、女性相談所職員	①療護の措置を要する者等を訪問し面接して行う指導等、精神障害者の訪問指導、要保護女子に関する相談・指導、一時保護 ②結核患者家庭訪問指導、肢体不自由児の日常生活介助	24,501 千円	①日額450円、570円 ②日額230円
	種雄牛取扱等作業手当	農林業総合試験場職員	種雄牛又は種雌豚を飼する作業、牛馬の直腸検査	78 千円	日額230円
	有害物取扱手当	保健環境研究所、工業技術センター、農林業総合試験場職員	有害農薬使用の農作物害虫等防除、有害ガス発生を伴う業務又は特に危険な薬品の取扱業務	999 千円	日額130円～290円
	県税事務手当	県税職員	県税の賦課及び徴収	74,356 千円	日額650円、800円
	夜間看護等手当	粕屋新光園の看護師	①正規の勤務時間による勤務の一部又は全部が深夜において行われる看護業務 ②正規の勤務時間外の救急医療業務	6,945 千円	①1回2,900円、3,300円 ②1回1,240円
	犯則取締等手当	漁業取締業務に従事する職員、麻薬取締員	海上被疑者追跡又は取調、麻薬取締業務、航海中の船舶調査等、現業職員の5t未満の船舶運転	526 千円	日額280円～550円
	特殊現場作業手当	保健福祉環境事務所等、保健環境研究所、流域下水道事務所職員	①し尿処理施設、化製場・死亡獣畜取扱場及び下水道処理施設立入検査 ②産業廃棄物処理施設立入検査	629 千円	①日額230円 ②日額290円
	用地交渉手当	農林水産部、県土整備部、建築都市部等職員	用地交渉業務	9,284 千円	1回120円、230円
	訓練指導手当	消防学校職員	教育訓練業務	919 千円	日額720円
	災害心身急作業手当	県土整備事務所職員	警報発令中等の異状気象のもとでの、災害の未然防止、応急処置	63 千円	日額480円～1,095円
	道路上作業手当 (道路上等作業手当)	県土整備事務所職員	交通量の頻繁な道路上で、交通を遮断することなく行う道路維持修繕	11,226 千円	日額300円 ①日額160円 ②日額230円
	ほ場等管理業務手当	農林業総合試験場職員	①農業機械等を操作するほ場等管理業務 ②ふん尿収集、ほ場配布	1,033 千円	①日額120円 ②日額230円
	動物等保護管理作業手当	動物愛護管理技術員	①傷動物の収容作業 ②動物死体の収容作業	207 千円	①日額260円 ②日額230円
教育職員の兼務手当	教育職員	全日教育職員が本務の勤務時間を超えて夜間定時前の授業を行った場合はその逆の場合	353 千円	授業1時間2,780円	
夜間定時制勤務手当	事務職員、技術職員及びその他の職員	高等学校又は中等教育学校の後期課程の夜間定時制課程で授業時刻以後に2時間以上業務に従事	1,665 千円	日額340円 (事務長は日額220円)	
多学年学級担当手当	王幹教諭、指導教諭、教諭、助教諭、講師	小学校、中学校、中等教育学校の前期課程の2の学年の児童又は生徒で編制されている学級を担当し授業又は指導に従事	3,452 千円	日額290円	
通信教育指導手当	①通信教育を行う学校の教職員(本務職員を除く。) ②通信教育を行う学校及び校の教育職員(本務職員を除く。)	①系制指導 ②面接指導	0 千円	①1通当たり100円 ②1時間2,780円	
実習船乗船手当	①福岡県立水産高等学校の教育職員 ②福岡県立水産高等学校の職員	①実習船に乗り組み、漁ろうを伴う航海における生徒の実習指導等 ②船員法第82条の2第4項に規定する業務	825 千円	①日額3,000円 ②日額180円	
有害農薬による害虫等防除作業手当	農業高等学校の教育職員	有害農薬使用の害虫等防除	0 千円	1級 日額290円 2級 日額250円	
教員特殊業務手当	副校長、教頭、主任教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、講師、実習助手、畜舎舎指導員等	1号 学校の管理下の非常災害時等の緊急業務 イ…非常災害時の児童・生徒の保護又は緊急の防災・復旧の業務 ロ…児童・生徒の負傷、疾病等に伴う救急の業務 ハ…児童・生徒に対する緊急の補導業務 ニ…修学旅行等の引率・指導業務で宿泊を伴うもの ホ…部活動の指導業務で休日を伴うもの ヘ…入学試験の監督、採点等	1,327,357 千円	日額 1号イ … 6,400 円 1号イ(特に甚大な災害) … 12,800 円 1号ロ … 6,000 円 1号ハ … 6,000 円 2号 … 3,400 円 3号 … 3,400 円 4号 … 2,400 円 5号 … 900 円	



補導業務手当	児童又は生徒の補導を本務とする教育職員	児童又は生徒の補導業務に従事	6,746 千円	日額200円
教育公務員	<p>職務主任 3学級以上の学校の * 生徒指導主事 * 進路指導主事 (高等学校、中等教育学校 に置かれるもの) * 学科主任 * 農地主任 * 事務主任 * 学年主任 (一の学年が3学級以上の 学年に置かれるもの)</p>	主任等に発令された指導教諭又は教諭が、当該担当に係る業務に従事	149,326 千円	日額200円
	主として私職員の従事する 犯罪の予防及び捜査並びに 犯罪者逮捕の作業	犯罪の予防及び捜査並びに被疑者逮捕等	458,398 千円	日額320円、560円
	留置施設看守及び被疑者 (被告人その他法令により 拘禁されている者を含む。) 護送の作業	留置施設看守及び被疑者護送	34,279 千円	日額230円、240円
	交通捜査作業	高速道路等における事故捜査、交通違反取締り等	134,830 千円	日額310円～840円
	犯罪鑑識作業	現場等における犯罪鑑識	24,805 千円	日額280円、560円
	交通取締用自動車その他 特殊自動車の運転、警備 用船舶運行及び自動車の 検査に関する作業	交通指導取締、犯罪捜査等を目的とした、交通取締用無線自動車 及び捜査専用車等の運転等	72,178 千円	日額250円～560円
	暴力団犯罪対策及び銃器 等犯罪捜査の作業	銃器を使用した現場等における犯人の逮捕等	21,344 千円	日額560円～1,640円
	結核患者接触作業	結核患者に接触して行う治療に関する諸注意、情報提供等	0 千円	日額230円
	死体処理作業	人の死体の解剖・検視・実見見分等直接死体に接触する作業	89,574 千円	日額1,600円、3,200円 1件当たり3,200円
	坑内作業	鉱山の坑内又は掘削中のトンネルの坑内で、ガス爆発、火災、出 水、落盤等の災害が起ったときに、当該坑内で行う災害関連作業	0 千円	日額1,900円
	航空機の機銃及び航空機 に搭乗して行う機銃以外の 作業	①航空機の機銃作業 ②航空機に搭乗して行う整備作業 ③航空機に搭乗して行う機銃及び整備以外の作業	16,049 千円	①1時間5,100円 ②1時間2,200円 ③1時間1,900円
	警ら作業	警ら作業	197,578 千円	日額340円
	爆発物の取締り及び処理 の作業	①爆発物取締作業 ②爆発物処理作業	337 千円	①日額300円、460円 ②1件当たり5,200円
	夜間特殊業務に従事する 作業	正規の勤務時間において従事する作業(指定されたものに限る。) の時間帯が深夜の一部又は全部を含むとき	351,016 千円	1回730円
	救難救助作業(その他のための 訓練の作業を含む。)	①危険を伴う山岳地帯難者の救難救助又は天災地変若しくは水 難、火災、危険物の爆発事故その他異常な事象における救難救助 ②福島原発の敷地内及びその周辺の区域で行う業務	3,176 千円	①日額410円、840円、 1,680円 ②日額660円 ～40,000円
	夜間緊急処理作業	突発的発生業務の処理のために、正規の勤務時間外の時間にお いて緊急の呼び出しにより勤務することを命ぜられた作業に従事 し、その時間帯の一部又は全部が夜間であるとき	4,030 千円	1回1,240円
	潜水作業	潜水器具着用にによる潜水作業	55 千円	1時間310円～1,500円
	国際緊急援助作業	海外地域での国際緊急援助隊の派遣に関する法律第2条に規定 する国際緊急援助活動の作業	0 千円	日額4,000円
	サンその他の特殊危険物 質の処理等の作業	特殊危険物質等の発生している状況下、現場で行う救助又は捜査 等	0 千円	日額250円～4,600円
	海外犯罪情報収集作業	日本国外において従事する犯罪の捜査情報収集(人事委員会が定 める場合に限る。)	0 千円	日額1,100円
	身辺警護等作業	天皇・皇后等の皇族及び警護対象者の身辺警護若しくは身辺警護	599 千円	日額640円、1,150円

## (5) 時間外勤務手当(全職員)

支給実績(26年度決算見込)	9,319,146 千円
職員1人当たりの平均支給年額(26年度決算見込)	439 千円
支給実績(25年度決算)	8,860,055 千円
職員1人当たりの平均支給年額(25年度決算)	418 千円

(注) 職員1人当たりの平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績(26年度決算見込)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数(管理職員、  
教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。)であり、短時間勤務職員を含みます。

(6) その他の手当 (26年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (26年度決算見込)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (26年度決算見込)
扶養手当	○扶養親族のある職員に対して支給 ・配偶者 13,000円 ・配偶者以外の扶養親族1人につき 6,500円 (配偶者がいない場合の1人目 11,000円) ・16歳になる年度初めから22歳になった年度末までの子の加算 5,200円	異なる	16歳になる年度初めから22歳になった年度末までの子の加算額は、国は45,000円	5,924,350 千円	234,377 円
住居手当	○自ら居住するため住宅を借り受け、家賃を支払っている職員 ・家賃23,000円以下 家賃—12,000円 ・家賃23,000円超 11,000円+(家賃—23,000円)×1/2 (支給限度額27,000円) ○特等居住者で世帯主である職員、廃止 ただし、以下のとおり経過措置を設ける ・平成26年4月～平成27年3月 月額1,500円 ○単身赴任手当を支給されている職員の配偶者が居住する住居 ・上記額の1/2	同じ	—	4,216,066 千円	120,390 円
通勤手当	○交通機関、交通用具(自動車等)を使用して通勤している職員に支給 ・運賃等相当額の支給限度額 55,000円 ・交通用具利用者の支給額 2,000円～24,500円 ・新幹線等利用者の特別料金等加算 (取外上限41,000円)	異なる	(国の制度) ・運賃等相当額の支給限度額 55,000円 ・交通用具利用者の支給額 2,000円～24,500円 ・新幹線等利用者の特別料金等加算 (上限2万円)	6,714,101 千円	129,466 円
初任給調整手当	○専門的知識を必要とし、かつ、女員補充が困難である職について、民間企業の給与水準と調整するために支給 ・医師、歯科医師 306,900円以下(35年) ・研究員 100,000円以下(10年) ・獣医師 30,000円以下(15年)	異なる	(国の制度) ・医師、歯科医師 410,900円以下(35年) ・獣医師への支給なし	84,787 千円	865,173 円
単身赴任手当	○異動又は公署の移転を原因として単身赴任となった職員に対して支給 ・23,000円～68,000円	同じ	—	65,269 千円	310,805 円
宿日直手当	○宿日直勤務を行った職員に支給 ・通常 5,100円 ・医師、歯科医師 20,000円 ・生活指導 7,200円 ・寄信指導 5,900円	異なる	国は通常の宿日直は 4,200円	1,585,830 千円	193,205 円
管理職員特別勤務手当	○週休日又は休日等において勤務した管理職員に対して支給 ・職の区分に応じ、1回4,000円～12,000円 (従事時間が6時間を超える場合は、1.5倍)	異なる	区分や支給額が異なる	70,848 千円	175,366 円
夜間勤務手当	○深夜にわたる正組の勤務時間に勤務した職員に対して支給 ・勤務1時間当たりの給与額×25/100×午後10時から翌日の午前5時までの勤務時間	異なる	勤務1時間当たりの給与額の算出方法が異なる	928,846 千円	97,353 円
休日勤務手当	○休日等における正組の勤務時間に勤務した職員に対して支給 ・勤務1時間当たりの給与額×135/100×勤務時間数	異なる	勤務1時間当たりの給与額の算出方法が異なる	2,116,277 千円	170,626 円
管理職手当	○管理又は監督の地位にある一定範囲の職員に対して支給 ・給料表・職務の級・職の区分別に定めた額 (40,800円～139,100円)	異なる	区分や支給額が異なる	2,283,902 千円	688,752 円
農林漁業普及指導手当	○農林漁業等の普及指導に従事する職員に対して支給 ・給料月額×8% (管理職手当受給者は4%)			92,284 千円	324,944 円
警察	特地利務手当	○生活が著しく不便な地に所在する公署に勤務する職員に対して支給 ・(給料の月額+扶養手当)×級地区別支給割合—地域手当 * 級地区別支給割合 4%～25%	同じ	—	
	特地利務手当に準ずる手当	○特地利務又は特地利務に準ずる公署に勤務するために住居を移転した職員に支給 ・(給料の月額+扶養手当)×支給率 * 支給率 異動後4年間 4%～6%、5年目4%、6年目2%(歳高6年) * 級地区別支給割合 6%～22%	同じ	—	
	へき地手当	○生活が著しく不便な地に所在するへき地等学校に勤務する職員に対して支給 ・(給料の月額+教職調整額+扶養手当)×級地区別支給割合—地域手当 * 級地区別支給割合 6%～22%			
	へき地手当に準ずる手当	○へき地等学校に勤務するためにへき地等学校が所在する市町村内に住居を移転した職員に支給 ・(給料の月額+教職調整額+扶養手当)×支給率 * 支給率 異動後5年間 4% その他1年間 2%		51,848 千円	185,171 円

学	<p>○義務教育等諸学校に勤務する教育職員に支給          ・月額8,000円を超えない範囲内で、職務の級、号給別に定めた額          ・産業教育手当、定時制通信教育手当の支給を受ける期間に調整          支給する。          ＊夜間定時制、通信教育に係る定通手当又は農業、水産に係る          産業教育手当の支給期間：定額の3/4の額          ＊上記以外の者：定額の2/4の額</p>				2,171,644 千円	63,523 円
校	<p>○農業、水産、工業の教科の授業及び実習を担当す          る教育職員に支給          ・(給料月額+教職調整額)×5%          (定通手当受給者、管理職手当受給者は3%)</p>				128,968 千円	203,420 円
	<p>○定時制課程及び通信制課程に勤務する教育職員に支給          ・(給料月額+教職調整額)×3～5%          ＊校長、副校長、教頭 5%          夜間定時制教育に従事する職員 5%          昼間定時制教育、通信教育に従事する職員 3%</p>				69,867 千円	169,993 円

**6 特別職の報酬等の状況（26年4月1日現在）**

区分		給料月額等
給料	知事	1,350,000 円
	副知事	1,080,000 円
報酬	議長	1,110,000 円
	副議長	980,000 円
	議員	890,000 円
期末手当	事知事	(26年度支給割合) 3.1 月分
	事副議長	(26年度支給割合) 3.1 月分
退職手当	事知事	(算定方式) 135万円×在職月数×0.54
	事副議長	(算定方式) 108万円×在職月数×0.41
地域手当	事知事	(1期の手当額) (支給時期) 34,992 千円 (任毎)
	事副議長	(1期の手当額) (支給時期) 21,254 千円 (任毎)
		支給率 4.75%

(注) 退職手当の11期の手当額は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期(4年=48月)勤めた場合における退職手当の見込額です。

**7 職員数の状況**

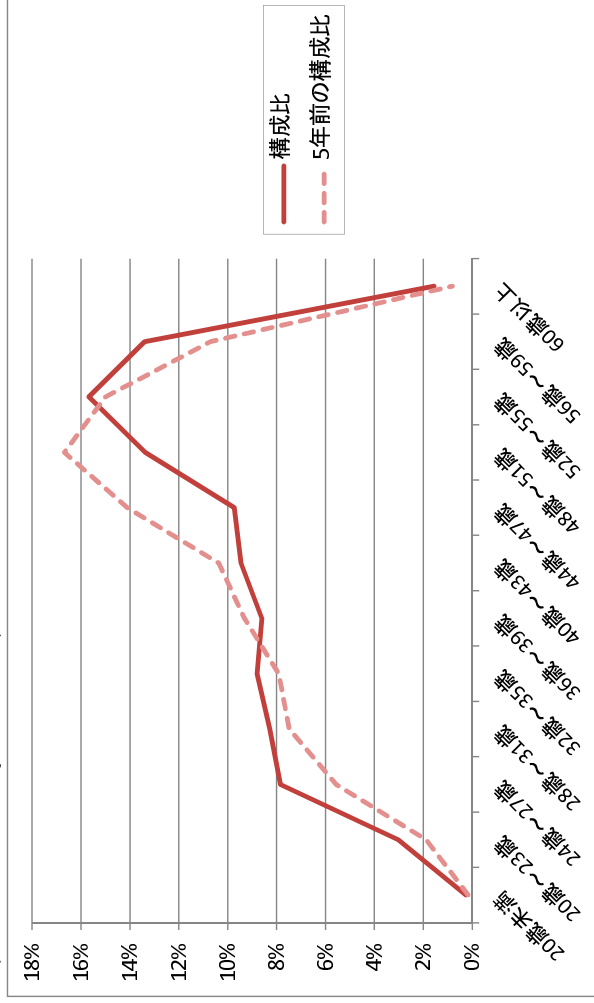
**(1) 部門別職員数の状況と主な増減理由**

(各年4月1日現在)

区分 部門	職員数		対前年 増減数	主な増減理由
	平成26年	平成25年		
知事部局	7,659人	7,748人	△89人	事務事業の見直し・外部委託化 (参考:人口10万人当たりの職員数149.62人)
教育委員会	30,693人	30,796人	△103人	事務事業の見直し及び児童生徒数の減少に伴うものなど (参考:人口10万人当たりの職員数599.61人)
その他	11,789人	11,658人	131人	警察法施行令の改正など (参考:人口10万人当たりの職員数230.31人)
合計	50,141人	50,202人	△61人	(参考:人口10万人当たりの職員数979.54人)

(注) 職員数は、一般職に属する職員数で、部門のその他は、各種委員会(教育を除く。)、警察本部、議会事務局、企業局です。

(2) 年齢別職員構成の状況（26年4月1日現在）



区分	20歳	24歳	28歳	32歳	36歳	40歳	44歳	48歳	52歳	56歳	60歳	計
職員数	130	1,518	3,932	4,152	4,315	4,738	4,882	6,704	7,858	6,714	784	50,141
	未滿	23歳	27歳	31歳	35歳	39歳	43歳	47歳	51歳	55歳	59歳	以上
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

(3) 職員数の推移

(単位:人・%)

部 門	年 度	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	過去5年間の増減数(率)
知事部局		8,025	7,946	7,896	7,817	7,748	7,659	▲ 366 (▲ 4.6%)
教育委員会		31,569	31,179	30,875	30,869	30,796	30,693	▲ 876 (▲ 2.8%)
その他		11,585	11,540	11,483	11,529	11,658	11,789	204 (+1.8%)
計		51,179	50,665	50,254	50,215	50,202	50,141	▲ 1,038 (▲ 2.0%)

(注) 1 各年における定員管理調査において報告した職員数です。  
 2 その他は、各種委員会（教育を除く。）、警察本部、議会事務局、企業局です。

## 8 公営企業職員の状況

## (1) 職員給与費の状況

決算見込

区分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率		(参考) 25年度の総費用に占 める職員給与費比率 %
				B/A	%	
26年度	千円	千円	千円	%	%	
電気事業	465,255	27,313	175,287	37.7	39.3	
工業用水道事業	1,536,447	449,415	224,570	14.6	17.0	
工業用地造成事業	1,232,567	△ 479,244	48,131	3.9	9.7	

区分	職員数 A	給与費			一人当たり給与費 B/A	
		給料	職員手当	期末・勤労手当	計	B
26年度	人	千円	千円	千円	千円	千円
電気事業	14	60,963	16,138	24,278	101,379	7,241
工業用水道事業	20	84,691	23,503	34,488	142,682	7,134
工業用地造成事業	3	11,315	2,734	4,570	18,619	6,206

(注) 1 職員手当には退職手当を含みません。

2 職員数は、27年3月31日現在の人数です。

## (2) 職員の基本給、平均月収額及び平均年齢の状況 (26年4月1日現在)

## ・電気事業

区分	平均年齢	基本給	平均月収額
福岡県	45.1 歳	398,518 円	603,451 円

## ・工業用水道事業

区分	平均年齢	基本給	平均月収額
福岡県	45.0 歳	377,871 円	594,511 円

## ・工業用地造成事業

区分	平均年齢	基本給	平均月収額
福岡県	39.1 歳	336,037 円	517,186 円

(注) 平均月収額には、期末・勤労手当等を含みます。

## (3) 職員の手当の状況

ア 期末手当・勤労手当

公 営 企 業	行 政 職 員
1人当たり平均支給額(26年度決算見込)	1人当たり平均支給額(26年度決算見込)
期末・勤労手当 1,712 千円	期末・勤労手当 1,568 千円
(26年度支給割合)	(26年度支給割合)
期末手当 勤労手当	期末手当 勤労手当
2.60 月分 1.50 月分	2.60 月分 1.50 月分
(1.45) 月分 (0.70) 月分	(1.45) 月分 (0.70) 月分
(加算措置の状況)	(加算措置の状況)
職制上の段階、職務の級等による加算措置	職制上の段階、職務の級等による加算措置
役職加算 5~20%	役職加算 5~20%
管理職加算 15%	管理職加算 10~25%

(注) ( ) 内は、再任用職員に係る支給割合です。

## イ 退職手当（26年4月1日現在）

(支給率)	公 営 企 業		行 政 職 員	
	自己都合	定年・早期退職 募集による退職	自己都合	定年・早期退職 募集による退職
勤続20年	21.62 月分	27.025 月分	21.62 月分	27.025 月分
勤続25年	30.82 月分	36.57 月分	30.82 月分	36.57 月分
勤続35年	43.70 月分	52.44 月分	43.70 月分	52.44 月分
最高限度額	52.44 月分	52.44 月分	52.44 月分	52.44 月分
その他の加算措置	—	—	—	—
1人当たり平均支給額	— 千円	25,368 千円 (割増率2%～45%)	3,917 千円	23,164 千円 (割増率2%～45%)

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、26年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額です。

## ウ 地域手当（26年4月1日現在）

地域手当支給実績(26年度決算見込)		6,897 千円	
地域手当支給職員1人当たり平均支給年額(26年度決算見込)		186,415 円	
地域手当支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度(支給率)
福岡市	4.75 %	20 人	4.75 %
福岡市を除く福岡県内の地域	3.50 %	17 人	3.50 %

## エ 特殊勤務手当（26年4月1日現在）

支給実績(26年度決算見込)	141 千円
支給職員1人当たり平均支給年額(26年度決算見込)	12,804 円
職員全体に占める手当支給職員の割合(26年度)	29.7 %
手当の種類(手当数)	2

手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (26年度決算見込)	左記職員に対する支給単価
危険業務 手当	支給対象の作業 に従事した職員	①高圧機器整備点検作業 ②水路管内作業 ③高所作業 ④洪水吐ゲートの保守点検作業 ⑤有害薬品を使用する作業 ⑥漏水事故復旧等の道路上作業 ⑦災害応急作業	135 千円	①日額300円 ②日額220円 ③、④日額220円、320円 ⑤日額130円、250円 ⑥日額300円 ⑦日額480円～1,095円
用掛交渉 手当	交渉業務に従事した職員	用地交渉業務	6 千円	日額700円、1,050円

## オ 時間外勤務手当

支給実績(26年度決算見込)	10,461 千円
職員1人当たり平均支給年額(26年度決算見込)	317 千円
支給実績(25年度決算)	12,772 千円
職員1人当たり平均支給年額(25年度決算)	365 千円

- (注) 1 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含みます。  
 2 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績(26年度決算見込)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数(管理職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。)であり、短時間勤務職員を含みます。

## カ その他の手当（26年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	行政職員の制度との異同	行政職員の制度と異なる内容	支給実績 (26年度決算 見込)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (26年度決算見込)
扶養手当	○扶養親族のある職員に対して支給 ・配偶者 13,000円 ・配偶者以外の扶養親族1人につき 6,500円 (配偶者がない場合の1人目 11,000円) ・16歳に達する年度初日から22歳になった年度末までの子の加算 5,200円	同じ	—	4,697 千円	234,845 円
住居手当	○自ら居住するため住宅を借り受け、家賃を支払っている職員 ・家賃23,000円以下 家賃—12,000円 ・家賃23,000円超 11,000円+(家賃—23,000円)×1/2 (支給限度額27,000円) ○持家居住者で世帯主である職員 廃止 ただし、以下のとおり経過措置を設ける ・平成26年4月～平成27年3月 月額1,500円 ○単身赴任手当を支給されている職員の配偶者が居住する住居 ・上記額の1/2	同じ	—	3,454 千円	138,176 円
通勤手当	○交通機関、交通用具(自動車等)を使用して通勤している職員に支給 ・運賃額(原則として6箇月定期の額) ・交通用具使用額 通勤距離に応じ2,000円～ ・新幹線等利用者の特別料金等加算 (県外上限41,000円)	同じ	—	12,303 千円	351,522 円
単身赴任手当	○異動又は公署の移転を原因として単身赴任となった職員に対して支給 ・23,000円～68,000円	同じ	—	0 千円	0 円
管理職員特別勤務手当	○週休日又は休日等において勤務した管理職員に対して支給 ・職の区分に応じ、1回10,000円～11,000円 (従事時間が6時間を超える場合は、1.5倍)	同じ	—	15 千円	15,000 円
夜間勤務手当	○深夜にわたる正規の勤務時間に勤務した職員に対して支給 ・勤務1時間当たりの給与額×25/100 ×午後10時から翌日の午前5時までの勤務時間	同じ	—	0 千円	0 円
休日勤務手当	○祝日等における正規の勤務時間に勤務した職員に対して支給 ・勤務1時間当たりの給与額×135/100×勤務時間	同じ	—	0 千円	0 円
管理職手当	○管理又は監督の地位にある一定範囲の職員に対して支給 ・給料表・職務の級・職の区分別に定めた額 (81,600円～106,200円)	同じ	—	4,406 千円	1,101,600 円



## 9 職員の勤務時間その他の勤務条件の状況

職員の勤務時間その他の勤務条件は、国及び他の地方公共団体の職員との間に権衡を失しないように考慮して、条例等で定めています。その概要は、次のとおりです。

### (1) 勤務時間

勤務時間は、休憩時間を除き、1日について7時間45分、1週間について38時間45分です(日曜日及び土曜日は週休日)。

一般的な職員の勤務時間は、各任命権者の規程等により、知事部局及び教育委員会は午前8時30分から午後5時15分まで、警察本部は午前9時から午後5時45分までとしています。また、交替制勤務職員など、勤務の特殊性によりこの勤務時間により難い職員の勤務時間は、別に定められています。

なお、知事部局及び教育委員会の本庁及び福岡市内の出先機関(学校を除く。)においては、一般的な職員の勤務時間に加え、始業時刻を午前9時、終業時刻を午後5時45分とする時差通勤を実施しています。

### (2) 休憩時間

一般的な職員の休憩時間は、正午から午後1時までの1時間としています。

### (3) 週休日・休日

週休日とは、原則として毎週日曜日及び土曜日を、また、休日とは祝日法による休日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日)及び年末年始の休日(12月29日から翌年の1月3日までの日(祝日法による休日を除く。))をいいます。

なお、公務の運営上の事情により、特別の形態によって勤務する必要がある職員については、週休日を別に定めています。

### (4) 休暇

休暇の種類は、給与が支給されるか否かによって、有給休暇と無給休暇に分けることができます。有給休暇としては、事由を限らず、毎年与えられる年次休暇と、特定の事由に基づいて認められる特別休暇等があります。また、無給休暇として、介護休暇等があります。

特別休暇は、選挙権の行使、結婚、出産、交通機関の事故等25項目を設けています。

## 10 職員の休業に関する状況

### (1) 休業の概要

「休業」とは、職は保有するものの職務に従事しないというもので、分限処分である「休職」と同様の性格を有していますが、本人の請求により認められる点が「休職」とは異なります。

育児休業は、子を養育する職員の継続的な勤務を促進し、もって職員の福祉を増進するとともに、行政の円滑な運営に資することを目的とした制度で、対象となる子の年齢は3歳未満となっております。

次世代育成の観点から、男性の積極的な育児参加が特に求められている中、福岡県においても、各任命権者が職員の子どもの健やかな育成のための計画(特定事業主行動計画)を策定し、育児休業等の制度周知の徹底と取得しやすい環境整備を図っているところです。

自己啓発等休業は、公務員としての能力・資質向上や公務意識の醸成及び国際協力を促進するため、大学等課程の履修又は国際貢献活動への参加を可能とする制度です。

大学院修学休業は、公立学校の教員が専修免許状を取得する機会を拡充するため、国内外の大学院等に在学してその課程を履修することを可能とする制度です。

配偶者同行休業は、公務員において活躍することが期待される有為な職員の継続的な勤務を促進するため、職員が外国で勤務等をする配偶者と生活を共にすることを可能とする制度です。

### (2) 休業の状況

平成26年度における職員の休業の状況については、次のとおりです。

(単位:人)

休業の種類	育 児 休 業	自 己 啓 発 等 休 業	大 学 院 修 学 休 業	配 偶 者 同 行 休 業	合 計
人 数	756	9	1	0	766
	906	14	0	0	920

(注)1 上段は平成26年度に新たに取得した者、下段は平成25年度以前から引き続き取得している者の人数です。

2 政令市立学校の教職員は含みません。

3 同一の者が複数回にわたって休業を取得した場合は、その数を重複して計上しています。

## 11 職員の分限及び懲戒処分の状況

### (1) 分限制度の概要及び処分の状況

分限制度は、職員が恣意的にその職を奪われることのないよう身分を保障することにより、公務の中立性、安定性を確保し、その適正かつ能率的な運営を図ろうとする趣旨から整備されています。

任命権者が職員をその意に反して降任し、又は免職することができるのは、①勤務実績が良くない場合、②心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合、③その職に必要な適格性を欠く場合等であり、また、休職にすることができるのは、①心身の故障のため、長期の休養を要する場合、②刑事事件に関し起訴された場合、③学校、研究所、病院その他これらに準ずる公共的施設において、その職員の職務に関連があると認められる事項の調査、研究又は指導に従事する場合等とされています。平成 26 年度における分限処分の状況は、次のとおりです。

(単位:人)

処分の種類	降任	免職	休職	合計
処分事由				
勤務実績が良くない場合	0	0		0
心身の故障の場合			547	547
職に必要な適格性を欠く場合	0	1		1
職制、定数の改廃、予算の減少により廃職、過員を生じた場合	0	0		0
刑事事件に関し起訴された場合			2	2
学校、研究所等において調査、研究等に従事する場合(斜定軸)			3	3
災害により生死不明又は所在不明となった場合(斜定軸)			0	0
合計	0	1	552	553

(注)1 政令市立学校の教職員は含みません。

2 同一の者が複数回にわたって分限処分に付された場合は、その数を重複して計上しています。

3 休職に付されている者の休職期間が更新された場合は、その都度新たな処分が行われたものとみなして計上しています。

### (2) 懲戒制度の概要及び処分の状況

任命権者は、①地方公務員法(昭和 25 年法律第 261 号)等に違反した場合、②職務上の義務に違反し、又は職務を怠った場合、③全体の奉仕者たるにふさわしくない非行のあった場合のいずれかに該当するときは、懲戒処分として戒告、減給、停職又は免職の処分をすることができるとされています。平成 26 年度における懲戒処分の状況は、次のとおりです。

(単位:人)

処分事由 処分の種類	免職	停職	減給	戒告	合計
給与・任用に関する不正 (給与不正領得等)	0	0	0	0	0
一般服務違反関係 (欠勤、勤務態度不良等)	0	1	2	1	4
一般非行関係 (傷害、異性関係非行等)	5	3	2	3	13
収賄等関係 (収賄、横領等)	0	0	0	0	0
道路交通法違反	1	1	1	0	3
監督責任	0	0	0	3	3
合計	6	5	5	7	23

(注) 1 政令市立学校の教職員は含みません。

2 同一の者が複数回にわたって懲戒処分が付された場合は、その数を重複して計上しています。

## 12 職員の服務の状況

職員は、全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、かつ、職務の遂行に当たっては、全力を挙げてこれに専念しなければならないこととされています。この趣旨を具体的に実現するため、地方公務員法や教育公務員特例法(昭和 24 年法律第 1 号)によって、法令等及び上司の職務上の命令に従う義務、信用失墜行為の禁止、職務上知り得た秘密を守る義務、政治的行為の制限、争議行為等の禁止、営利企業等の従事制限など、民間企業の勤労者とは異なる職務上の強い制約が課されています。

これらの服務規律を保持するため、懲戒制度が設けられており、その懲戒処分の状況は、11(2)のとおりです。

また、市町村立学校に勤務する教職員(県費負担教職員)については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)により、市町村教育委員会がその服務を監督すると定められています。

なお、制度の趣旨を徹底させるため、所属研修を実施するほか、日常の具体的事例に関する照会等の機会を通じて、適切な処理を行っているところです。

さらに、福岡県職員倫理条例(平成 13 年福岡県条例第 49 号)を制定し、職員が常に認識しておかなければならない基本的な心構えや職員が遵守すべき倫理行動規程を規定するとともに、入札参加事業者との原則交際禁止等に関する規定を定めています。

### 13 職員の研修及び勤務成績の評定の状況

#### (1) 研修の概要

職員の研修は、職員の勤務能率の発揮及び増進を目的に、任命権者において組織的かつ計画的に行われています。

例えば、知事や議会、監査委員、教育委員会、人事委員会等の事務部に勤務する職員については、職員研修を自己啓発・職場研修・研修所研修・派遣研修に区分して実施しています。

また、教育公務員については、教育公務員特例法においても、絶えず研究と修養に努めなければならぬことが規定されており、より豊富な研修の機会が設けられています。

平成 26 年度に行われた主な研修には、次のようなものがあります。

#### (行政職員)

自己啓発	通信研修支援 自主研究グループ支援
職場における研修	部局研修・所属研修(同和問題、公務員倫理 等) 業務専門研修
研修所における研修	基本研修(新採用職員研修、一般職員研修、管理監督者研修、再任用職員研修) 専門研修(財務諸表の読み方、行政法基礎、政策評価、折衝・交渉力、プレゼンテーション 等) 特別研修(OJTによる人材育成、新採職員マンツーマン指導者、公務員倫理指導者養成、九州・山口各県職員合同 等)
派遣研修	自治大学校派遣研修 都道府県、市町村、企業等派遣研修 大学院派遣研修 等

#### (教職員)

職場における研修	各所属の諸課題における研修(授業改善、人権・同和、教育相談 等)
研修所等における研修	(教育センター、体育研究所等で行われる研修) 基本研修(初任者研修、10年経験者研修、新任校長研修 等) 専門研修(各教科の指導に関する研修 等) 長期研修 課題研修(体力向上、薬物乱用防止 等)
派遣研修	教職員等中央研修(校長マネジメント研修、副校長・教頭等研修、中堅教員研修、健康教育、体力向上 等) 教育課題研修指導者海外派遣プログラム 国立大学・大学院派遣長期研修 等

#### (警察官)

職場における研修	各所属における集合教養 本部主管課による研修・講習 部外講師による講演 等
警察学校における研修	採用時教養 昇任時教養 専科等教養

派遣研修

国際犯罪捜査実務海外研修  
語学委託研修 等

## (2) 勤務成績の評定の概要

任命権者は、公務能力を増進させることを目的に、職員の職務について定期的に勤務成績の評定を行い、その評定の結果に応じた措置を講ずることとされています。

職員の能力や経歴、勤務実績等を総合的に評定することを通じて転任や昇任等を行い、適材適所の徹底を図っています。

また、職員の能力向上を喚起するためには、能力や業績をよりの確に把握する新たな人事評価制度を整備し、効果的に運用することが必要です。知事部局及び教育委員会等では、新たな人事評価制度を平成18年度から管理職員に、平成20年度から課長補佐級職員と係長に、平成21年度からその他の全ての職員に対して導入し、取り組んでいます。

公立学校に勤務する教員等については、別途自己評価及び業績評価からなる人事評価制度を、平成18年度から実施しています。

## 14 職員の福祉及び利益の保護の状況

### (1) 安全衛生管理

職員の安全と健康を確保し、快適な職場環境を形成するために、労働安全衛生法(昭和47年法律第57号)及び各任命権者の安全衛生管理規程・健康管理規程に基づき、総括安全衛生管理者又は健康管理者、産業医、安全管理者及び衛生管理者の選任並びに総括安全衛生委員会・警察本部衛生委員会等を設置しています。

さらに、全所属に健康推進員(副課長、課長補佐、副所長、事務長等)又は健康管理担当者(所属長)・副健康管理担当者を配置するとともに、(安全)衛生委員会や各地区連絡協議会等を設置し、安全衛生管理活動の推進を図っています。

### (2) 職員の健康管理

労働安全衛生法に基づき、事業者責任として職員の健康管理状態を把握し、健康障害や疾病の早期発見を行うため、全職員を対象に定期健康診断を、特定の有害業務従事者を対象に特別健康診断を実施しています。

### (3) 利益の保護の状況

職員の利益は、勤務条件に関する措置要求制度及び不利益処分に対する不服申立て制度によって保護されています。

勤務条件に関する措置要求制度は、給与、勤務時間その他の勤務条件に関し団体協約を締結することの認められない職員が人事委員会に対して地方公共団体の当局により適切な措置が執られるべきことを要求する制度であり、また、不利益処分に対する不服申立て制度は、不利益な処分を受けた職員が人事委員会に対して不服申立てを行うことを認める制度です。

これらの制度の状況は、「二 平成26年度における福岡県人事委員会の業務の状況」の3及び4のとおりです。

## 二 平成26年度における福岡県人事委員会の業務の状況

### 1 職員の競争試験及び選考の状況

#### (1) 競争試験

##### ① 職種及び日程

試験の種類	職種	日程				最終合格発表
		受付期間	1次試験	2次試験		
I 類	試験区分等 行政、学校事務、児童福祉、土木、建築、機械、化学、農業、農産、畜産、水産、獣医師、薬剤師、栄養士	5月19日 ～5月30日	6月22日	7月14日 ～8月1日	8月19日	
		8月18日 ～8月29日	9月28日	10月21日 ～11月11日 10月22日 ～11月14日	11月25日	
II 類	農業 行政事務、学校事務、警察事務	7月14日 ～7月25日	8月24日	11月1日 ～11月2日	11月25日	
III 類	一般事務、学校事務、警察事務、土木、林業	4月1日 ～4月21日	5月11日	6月30日 ～7月10日	8月8日	
民間企業等 職務経験者	行政	8月11日 ～9月1日	9月21日	11月4日 ～11月21日	12月22日	
	第1回	4月1日 ～4月21日	5月11日	6月30日 ～7月10日	8月8日	
警察官A (男性)	第2回	8月11日 ～9月1日	9月21日	11月4日 ～11月21日	12月22日	
	第1回	4月1日 ～4月21日	5月11日	6月30日 ～7月10日	8月8日	
警察官A (女性)	第2回	8月11日 ～9月1日	9月21日	11月4日 ～11月21日	12月22日	
	第1回	4月1日 ～4月21日	5月11日	7月7日	8月8日	
警察官A (武道指導)	第2回	8月11日 ～9月1日	9月21日	11月7日	12月22日	
	第1回	8月11日 ～9月1日	9月21日	11月4日 ～11月21日	12月22日	
警察官B (男性)	第2回	8月11日 ～9月1日	9月21日	11月4日 ～11月21日	12月22日	
	第1回	4月1日 ～4月21日	5月4日	7月7日	8月8日	
警察官B (女性)	第2回	8月11日 ～9月1日	9月21日	11月4日 ～11月21日	12月22日	
	第1回	4月1日 ～4月21日	5月4日	7月7日	8月8日	

## ② 人数

試験の種類	採用 予定数 (人)	申込者数 (人)	受験者数 (人)	受験率 (%)	一次 合格者数 (人)	最終 合格者数 (人)	受験 倍率 (倍)
I 類	122	1,727	1,131	65.5	281	143	7.9
II 類	71	855	580	67.8	167	79	7.3
III 類	55	796	583	73.2	138	58	10.1
民間企業等職務経験者	10	1,638	1,054	64.3	34	10	105.4
警察官 A (男性)	234	3,430	2,142	62.4	939	304	7.0
警察官 A (女性)	26	892	402	45.0	108	36	11.2
警察官 A (武道指導)	5	5	5	100.0	4	4	1.3
警察官 B (男性)	103	1,824	1,341	73.5	424	133	10.1
警察官 B (女性)	14	469	261	55.7	58	18	14.5
警察官 C	8	47	37	78.7	24	8	4.6
計	648	11,683	7,536	64.5	2,177	793	9.5

## (2) 採用選考

職員の採用は、地方公務員法上、原則として競争試験によることとされていますが、人事委員会の定める職について、人事委員会の承認があった場合は選考によることができるとされています。

各任命権者から提出された採用選考請求についての承認状況は、次のとおりです。

職	知事 (件)	教育委員会 (件)	警察本部長 (件)	その他 (件)	計 (件)
部長相当職		1			1
次長相当職	2		2		4
課長相当職	2	14	8		24
課長補佐相当職	1		1		2
係長相当職	14	3	1		18
上級係員相当職	2		1		3
係員相当職	7	4	7		18
計	28	22	20		70



なお、人事委員会において試験を実施している公開公募による採用選考の実施状況は、次のとおりです。

種別	職 種	採用 予定数 (人)	申込者数 (人)	受験者数 (人)	一次 合格者数 (人)	最終 合格者数 (人)	競争 倍率 (倍)
選考 (前期)	保健師、看護師、研究職員（化学 B（表 面処理）、化学 D、 薬学、獣医師）、児 童自立支援専門員、 職業指導員（自動車 整備科、電気工事科 、建築科、木工科、 左官科、被服科）	23	133	103	59	19	5.4
選考 (後期)	保健師、看護師、研 究職員（衛生学）、 児童自立支援専門員 、職業指導員（建築 科）、船員（航海）	13	48	33	25	10	3.3
身体障害 者を対象 とする採 用選考	一般事務、学校事務 、警察事務	9	22	18	15	8	2.3

### (3) 昇任選考

職員の昇任については、警察官昇任試験を除き選考により実施しています。  
任命権者へ委任したものを除く昇任選考の承認状況は、次のとおりです。

職 名	知 事 (件)	教育委員会 (件)	警察本部長 (件)	その他 (件)	合 計 (件)
部 長		1			1
次 長	2	3	2 3 (23)		2 8
課 長	4	1 0	4 7 (42)		6 1
課長補佐	7	4 0	8 (0)		5 5
係 長	2	2 5	2 2 (0)		4 9
計	1 5	7 9	1 0 0 (65)		1 9 4

(注 1) 職名の欄は、相当職を含みます。

(注 2) ( ) 内は公安職で内数です。

(4) **任期付職員の採用の承認**

任命権者は、任期付職員（任期付招へい研究員、特定任期付職員、一般任期付職員）の採用に当たり、人事委員会の承認を得なければなりません。

平成 2 6 年度の人事委員会の承認件数は 0 です。

- (注) ・任期付招へい研究員：民間等の優れた研究者を県の試験研究機関に受け入れるもの  
・特定任期付職員：高度の専門的な知識経験等を有する者を任期を定めて採用するもの  
・一般任期付職員：専門的な知識経験を有する者を任期を定めて採用するもの

## 2 給与等に関する報告及び勧告の状況

### (1) 給与勧告の概要

- ① 平成 26 年 4 月の公民較差に基づく給与改定
  - ・ 較差 (0.25%) の解消のため、若年層に重点を置きながら給料表の水準を引上げ
  - ・ 期末・勤勉手当の支給月数を 0.15 月分引上げ
- ② 給与制度の総合的見直し (平成 27 年 4 月以降)
  - ・ 給料表の水準を平均 2% 引下げ (激変緩和のため 5 年間の経過措置)
  - ・ 地域手当の支給割合の引上げ等

(2) 勧告日 平成 26 年 9 月 30 日

### (3) 平成 26 年 4 月の公民較差に基づく給与改定

#### ① 民間給与との比較

ア 月例給の較差

平成 26 年	参考 (平成 25 年)
0.25% 943 円	0.03% 112 円

イ 期末・勤勉手当

民間の年間支給割合	職員の年間支給月数
4.11 月	3.95 月

#### ② 給与改定の内容

ア 給料表 人事院勧告における俸給表の引上げ改定に準じて改定

イ 諸手当

(ア) 期末・勤勉手当 3.95 月分→4.10 月分 (勤勉手当を 0.15 月分引上げ)

(イ) 初任給調整手当 給料表の改定状況を勘案し医師等及び獣医師の手当限度額を引上げ (医師等 1,000 円、獣医師 200 円)

(ウ) 単身赴任手当 再任用職員に対して支給

### (4) 給与制度の総合的見直し(平成 27 年 4 月以降)

人事院は、地域間・世代間の給与配分の見直し、職務や勤務実績に応じた給与配分といった課題への対応や雇用と年金の接続を踏まえ、給与制度の総合的見直しを勧告。本県は、国の勧告内容を踏まえ、地方公務員法の均衡の原則や本県の実情を考慮しながら、所要の見直しを実施

① 給料表 人事院勧告における俸給表の引下げ改定(平均 2%)に準じて見直し

② 諸手当

ア 地域手当 支給割合を見直し(平成 27 年度以降段階的に引上げ)

イ 単身赴任手当 基礎額の引上げ(23,000 円→30,000 円)等

ウ 管理職員特別勤務手当 災害への対処等のための平日深夜勤務に対し、勤務 1 回につき 6,000 円以内を支給

③ 実施時期

ア 給料表は平成 27 年 4 月 1 日に切替

イ 給料表の切替に伴う激変緩和のための経過措置（5年間の現給保障）を実施

## (5) 意見

### ① 給与について

#### ア 教育職員の給与

国において、それぞれの職務に応じてメリハリのある教員給与体系の確立に向けた検討が続けられているところであり、国や他の地方公共団体の動向等に留意し、教育委員会と連携しながら、引き続き調査・研究を進めていく必要がある。

#### イ 本庁職員の処遇改善

本庁の業務の特殊性・困難性を踏まえ、本庁における人材確保が困難になっている事情を併せ考慮し、本庁の職員の処遇改善について検討する必要がある。

### ② 勤務環境の整備等について

ア 時間外勤務の縮減については、職員一人ひとりが計画的に業務に取り組むことが重要であり、管理監督者においては、積極的なリダーシップを発揮し、勤務状況の適切な把握や事前命令・事後確認の徹底等に努めることが強く求められる。イ メンタルヘルス対策は、職員の健康や良好な業務執行体制保持の観点から重要な課題であり、引き続き創意工夫し実効性を高めながら取組を継続することが必要である。また、ハラスメントの発生防止について意識啓発を徹底することが重要である。

ウ 両立支援の推進については、次世代育成支援対策推進法の有効期限が10年間延長されたことを受け、より一層の推進のため、具体的な目標を設定した特定事業主行動計画を策定し、今後とも積極的に取り組む必要がある。

エ 一般職非常勤職員等の任用に当たっては、総務省通知を踏まえ、勤務内容に応じた適切な任用期間の設定や勤務条件などの確保に努めていく必要がある。

### ③ 女性登用の拡大について

課長相当職以上に占める女性職員の割合は年々増加しており、引き続き将来の管理職登用を見据えた人事配置や女性職員の主体的な能力開発を促す研修の実施、管理職員の意識改革の推進などの取組を積極的に進める必要がある。

### ④ 公務員倫理の徹底について

職員研修の強化及び飲酒運転防止のための個人面談等の対策を講じてきたところであるが、本年度学校長の薬物事犯等の重大な不祥事が発生し、公務に対する県民の信頼が著しく損なわれている。任命権者は、改めて再発防止の徹底に努める必要がある。

### ⑤ 人事評価制度について

任命権者においては、評価に対する職員の納得性や制度に対する信頼性の向上を図っており、今後は、改正地方公務員法の施行に向けて、職員の理解と納得を得ながら、評価結果を給与等に反映させるための所要の整備を着実に進める必要がある。

### ⑥ 雇用と年金の接続について

雇用と年金の接続が引き続き確実になされるには、再任用制度の適切な運用を図るとともに、中長期的視点に立って、人事管理及び執行体制の在り方などについて検討を進めることが求められる。

### 3 勤務条件に関する措置の要求の状況

勤務条件に関する措置要求制度は、職員から勤務条件に関し、適当な行政上の措置を求めるといった場合に、人事委員会が必要な審査をした上で判定を行い、あるいはあつせん又はこれに準ずる方法で事案の解決に当たります。

#### (1) 係属の状況

	平成25年度末 の係属件数 (件)	平成26年度中 の要求件数 (件)	平成26年度中 の処理件数 (件)	平成26年度末 の係属件数 (件)
県分	0	0	0	0
受託分	0	0	0	0

※「受託分」は公平委員会の事務の委託を受けている町分

#### (2) 審査の状況

なし

**4 不利益処分に関する不服申立ての状況**

不利益処分についての審査制度は、職員から懲戒その他その意に反する不利益な処分を受けたとして不服申立て（審査請求又は異議申立て）があった場合、人事委員会が、事案を審査し、その結果に基づいて、その処分を承認し、修正し、又は取り消す判定（裁決又は決定）を行うものです。

**(1) 係属の状況**

	平成 2 5 年度末 の係属件数 (件)	平成 2 6 年度中 の申立て件数 (件)	平成 2 6 年度中 の処理件数 (件)	平成 2 6 年度末 の係属件数 (件)
懲戒処分	7 0, 7 4 8	1	1 5, 2 2 5	5 5, 5 2 4
分限処分	5	0	1	4
その他	7	0	0	7
計	7 0, 7 6 0	1	1 5, 2 2 6	5 5, 5 3 5
懲戒処分	0	0	0	0
分限処分	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
計	0	0	0	0

※「受託分」は公平委員会の事務の委託を受けている町分

**(2) 審査の状況**

事 案 名	審査等の状況
平成 2 4 年(不)第 1 号事案(再審)	決定(却下)
平成 2 5 年(不)第 2 号事案	裁決(処分修正)
昭和 4 4 年(不)第 2 8 3 1 号ほか 1 4, 2 6 2 事案	審査の打切り(規則第 1 3 条第 1 項 第 3 号、第 4 号、第 5 号及び附則第 3 項 該当)

※昭和 4 8 年(不)第 1 2 6 3 7 号事案ほか 9 6 0 事案は取り下げられた。